週　報

日本基督教団　翠ヶ丘教会

since 1964

2026 年度年間聖句

「主は人の一歩一歩を定め
御旨にかなう道を備えてくださる。」
（詩編 37 編 23 節）

どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝　毎日曜日　午前 10 時半
子どもの教会　毎日曜日　午前 9 時　～10時
祈 祷 会　各水曜日
○昼の聖書研究祈祷会
（第3・午後２時）
●夕の祈祷会
（第2、第4・午後７時）

牧　師　　井 殿　　準

〒 252-0312　相模原市南区相南 2-25-65
TEL. ０４２−７４２−１５９３
FAX. ０４２−７４２−１３９３
ホームページ：http://www.midorigaoka.jp
郵便振替口座　日本基督教団翠ヶ丘教会　本会計
００２９０−４−８０７０７

3233　2026 年 11 月 1 日

礼 拝 式 順 序

（降誕前第８主日・「聖徒の日／召天者記念日」）
～召天者記念礼拝～

司式者　井 殿　　準
奏楽者　菊 池 洋 子

前　　奏		奏 楽 者
招　　詞	詩編 96：7 ～ 9	司 式 者
讃 美 歌	５１「愛するイエスよ」	一　　同
聖　　書	黙示録２１：1～5（新 P. 477） ヨハネ１２：２０～２６（新 P. 192）	司 式 者
使徒信条	（９３－４－Ａ）	一　　同
祈　　祷		司 式 者
讃 美 歌	５７９「主を仰ぎ見れば」	一　　同
説　　教	「今も共にいる」	司 式 者
祈　　祷		〃
讃 美 歌	３８５「花彩る春を」	一　　同
召天者記念追悼式		司式　井殿牧師
献　　金		一　　同
主の祈り	（９３－５－Ａ）	〃
頌　　栄	２４「たたえよ、主の民」	〃
祝　　祷		司 式 者
答　　唱	４０－６「アーメン」	一　　同

～「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう～

報　　告		司 式 者
讃 美 歌	９１「神の恵みゆたかに受け」	一　　同

・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
・ＦＭ電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。
・マスクの着用は個人の判断にお任せいたします。ご心配な方はマスクを着用してください。

先週の説教要旨

「道を誤らないために」

（使徒言行録１４：８～１７）

パウロが「生まれつき足が悪く、まだ一度も歩いたことがなかった」男の足を癒すと、リストラの町の人々は、バルナバを「ゼウス」と、パウロを「ヘルメス」と呼んで、二人のことを神々として崇め出そうとしたが、その時、パウロとバルナバは、必死になってそれを阻止しようとした。二人にとって、それは絶対に受け入れ難いことであったのだ。

聖書は、人が神のようになることを厳しく戒めている（創世記３：22、同 11：7 他）。使徒言行録 12 章 20 節以下には、ティルスとシドンの住民が自分の前にひれ伏し、「あなたの声は人間の声ではない。神の声だ」と叫んだことに気をよくしたヘロデ王が、急死したことが記されている。聖書は、その理由を「神に栄光を帰さなかったからである」と告げる。「神々が人間の姿をとって降臨した」「ゼウスだ」「ヘルメスだ」と言われて礼拝されそうになった時、パウロとバルナバは、「わたしたちも、あなたがたと同じ人間にすぎません」「すべては神のなさったこと。誉め讃えられるべきは神です」「栄光はわたしにあるのでなく、神にこそあります」と語ったが、ヘロデの口から「栄光は神にこそある」という言葉が出て来ることはなかった。ヘロデは自分に栄光を帰してしまったのだ。では、我々はどうだろう？ 人から誉められたりする時、パウロたちのように、「誉められるべきは私でなく、神です」という思いを我々は抱いているだろうか？ いい気になって、手柄を全部自分のものにしてしまってはいないだろうか？

手柄を与えてくださったのは、いつも神だったはずだ。人から誉めてもらうのも、あれやこれができるのも、すべては神のお陰であること、誇るべきは私でなく、誇りと栄光は神にこそお返しすべきであることを知って、栄光を神に帰し、自分については、「私は為すべきことを為しただけ」と謙遜である時、我々は人生の旅路において道を誤ることなく歩んで行くことができる。道を誤らないために、我々は、今日から始まる一週間、神と人との前で謙遜に、神に栄光をお返ししながら歩んで行こう。